

私ってこのまま何も動かんかったら何もしなくなっ

ちやうわって

語り手 石田 陽菜乃（高校十六期生 産業社会学部）

聞き手 三村 真由

今の教育に対する思い

ーじゃあまず、高校時代のことから聞かせてください。そんなに畏まらなくて大丈夫ですよ（笑）。

あ、わかりました（笑）。まあまず、高校の時は探究が好きで頑張ってたっていう部分があつて、小学生の社会に対する当事者意識の育成みたいなのをテーマに入試イベントをやつて。次中学受験する小学生が来るイベントなんやけど。それは「サマースクール」って名前やったからオーブンキャパスなのかはよくわからへんけど（笑）。そこで色々企画してやらしてもらつたり、小学生が社会と自分が繋がってるってことを感じてもらえるようにっていうのをやつてました。で、吹奏楽部で結構ハードにやつてました。（笑）。今は産業社会学部の子ども社会専攻で小学校の教員になるための勉強をして、一応、中学と高校の社会の勉強も。選抜肢はもっておこうってことで。教職課程とって頑張ってますっていう感じです（笑）。

ーえっとじゃあまず、自分で考えて動く力はどんな経験が育ててくれたと思いますか？

そもそもAPっていうのが「自分が動けば動くほど（進んでいく）」って感じがあつて、「とりあえず動いたほうがいい」っていうことは何

となくわかった上で、APが始まったって感じで。

やっぱりいっぱい動けば動くほど、不発というか、行ってみただけなんか思つたんと違つたとか、っていうのもあつたけど、自分の行動でプロジェクトが良くなつていたりとか方向性が見えてきたりっていうのが、私はそれがすごく楽しくて。だから「自分で考えて動く力」っていうのはついたんやけど、それよりそれが楽しかったから、どんどんやっていこうって広がっていったって感じです。

ーそうなんです！そもそも初めて教育に関わりたと思ったのはいつどんな出来事がきっかけだったんですか？

初めに教育に関わりたと思ったのはほんまに小学生の時で（笑）。すごい小学校の先生が良くつて。なんか、私の担任でもあつたし私の弟の担任でもあつたんやけど、その先生は、ちよつとややこしかった弟に対して一人の「考えがある子」としてすごい納得するまで話を聞いてくれて。その上で、あなたのこういうところがダメなんだよっていうのを教えてくれるっていうめっちゃいい先生がいて。その先生を見て、なんか先生になりたいなと思つたのが最初のきっかけです。

でもその後も、中学も高校もずっと先生っていう存在が好きで、めっちゃ先生に話しかけにいくタイプやった（笑）。で、そういうのだけじゃなくって「人にどうやってわかりやすく伝えるか」とか「どうやってわかりやすく教えるか」とかがすごい好きやったなあっていうのもある。

ー一番は小学校の先生なんですか？中高の先生っていうより。

それなあ、大学入ったとくらいいから迷つて。最初、めっちゃ勝手な印象やけど、小学校の先生は学級経営とか教科が一つじゃない分「広く浅く」なイメージを持つて。でも産社（産業社会学部）で取れるの

って社会やからそれに特化して学んで行きたいっていう気持ちもどっかにあって。でも二回生になって小学校のための授業が増えていって、どの教科も浅くないってことを知ったからやっぱり小学校の先生にしようかなって最近はいよいよ始めてます（笑）。

—そうなんですね。他に、人とのつながりを自分で築くと書かれていましたが、それによって自分自身がどう変化したと思いますか？

自分自身がどう変化したかって、自分でも良くわからへんなと思ったけど、もともと人と繋がるうと思ってたっていう部分はある。それ以外のことで内面が変化したというよりは、その人とのつながりをもっと広げようと思ったのが一番大きいかあって思ってた。

探究でインタビュー行ったときも、東京研修で東京の塾を調べて行ってた。その時も最初ほんまに不安で行ったけど。そこでの学びがすごい面白くて、「生徒が話を聞いて先生が喋る」んじゃないくて「自分自身で学んでいく」とか、最初はクイズから始まって興味を引いてそれから始まって。で、じゃあ自分やったらどうするかって考えていくワークシヨップ型みたいな。

—北欧とかそういう感じの？

ああそうそう！そういうイメージ。すごい面白くてすごい楽しくて。そこで経験したことがそこからの探究に生かされたというか、それこそあの、サマースクール（小学生を対象にしたワークシヨップ）。小学生にワークシヨップしたのを考えながら東京研修で勉強したこととか、出会った先生に教えてもらったこととかがすごい活かされてるのを実感したかな。行動して得たものとか人からいろんなことを教えてもらったことすごい自分を支えてくれてるなって思ったのが、（自分自身がどう変化したのかの）例って感じです（笑）。

探究の授業から広がったもの

その、探究型学習の塾で結局大学生になったときに「自分もその生徒たちにその学びをさせる側に回ってみたいんか」って言ってもらって、東京が本部やっただけオンラインの同じ講座があったから去年一年間、土曜日の朝にその講師の先生とグループワークの進捗したりとか、プロジェクトで一人ひとりと「この子はこういうアドバイスあげたらいい」とか「こういう問いを投げかけてあげたら上手く動くんじゃないか」みたいに組み合わせていうのをやりました。

—探究で、インタビューさせてくださいって言って行ったら、「じゃあ（大学になって実際に教えてみるのは）どうや？」ってことですか？

そうそう。探究で東京って言われて最初は「どこ行ったらいいの！？」ってなって（笑）。まあもうキーワードで検索するしかないなと思ってとりあえず調べて（結局人から教えてもらった）。

2年生のときにあったGLフェスタで自分達と同じ学年の子達と企画することもできたんやけど。そのとき三年生やった、すごい活動的にいろんなことを取り組んではった先輩がいて。起業とかしてた。その先輩のチームに入れてもらってん。で、東京に行くんですけどっていう話をした時に「こういうところがあって自分が行ってすごい面白かったから。」って教えてもらったのがその探究型学習の塾やって。そういうところがすごいなと思って、探究。自分が飛び込んだ場所であつた人に教えてもらった場所が東京研修に繋がって、大学になっても続けられるってすごいなあって思う。やっぱり人に頼るって大事やなって（笑）。他にも、その時は予定合わへんくてインタビューに行けへんかったとことかも、後日大学になってから行かしてもらったりとか。

―あ、じゃあ今も続いてるってことですか？

うん。その活動は年に一回とかしかないけど、年に一回顔だして「お久しぶりですー」みたいな（笑）。多分FWで自分がどういうプロジェクトをするかっていうのを考える時が来ると思うんですけど、自分は、小学校の実際の教育現場を知らないのと、どうしてもネットに載ってることとか本だけじゃわからへんことがいっぱいあるから、小学校に電話してほんまに小学生の一日を見学させてもらった時があった。

そのときに行ったら、私が小学六年生の時の学年主任の先生が同じ地元の学校で校長先生ならはって、それもすごい「人の縁」を感じたな。ほんでインタビューさせてもらって、ありがとうございましたっていうのを伝えるに行ってそこから一旦しばらくは空いてたんやけど、（その先生が）大学になってほんまに知らんと入ったボランティアの団体の一緒にやってはる団体の中にはって。色々、出会いましたっていう話です（笑）。だいぶ（話が）逸れちゃったけど、すごいなあ人の繋がりとかって。

―ほんとですね。もしGLフェスタで先輩のチームに飛び込んで（一緒にやって）なくて、自分だけでやってたら……

そう！東京研修で塾行くこともなかったやろうし、いろいろ、な。

―APの中でもそういう印象に残ることがあるんですか？

APの中で特にこれが印象に残ってるのかいうのはないけど、APで「考え続けてきた」経験は今でも思い出して、あの時はあれこれ考えてたなとか思うことはあります。

さっきの、それこそ「人とのつながり」でいったら、嬉しかったことはサマースクールでワークショップした時に、「一緒にやりたいです」って言うてくれた一こ下の子がたまたま同じ子ども社会専攻に行くんで

すって言うてはって。結局、私が今入ってるボランティアの団体に興味もってかれて、今一緒に活動し始めてる、とか（笑）。

あとは、探究のワークショップをする前に練習って言ったら失礼やけど、一回試しにどこかの場所でやらせてもらって改善点とか、実際にやってみたときの伝わりかたとかを見てもらったら？って（探究型学習の塾を紹介してくれた）さっきの先輩に言ってもらって、川辺先生にアドバイスもらった。アドバイスもらったから、よし、やってみようと思つて。

今中学にはるんかな？川辺先生っていう先生が探究とか色々やってくれてはったし、川辺先生に古典とかをもってもらったこともあったし「ちよつとご相談があるんですけど、」って言ったら、放課後の時間に川辺先生の学年の子達が集まってくれてその子たちに一回やってみるっていうのをやらせてもらって。川辺先生がそこで、いろんなアドバイスしてくれはった。でその活動について最終論文を書かなあかんかってんけど、完成したものを見せに行った時に「中学の授業時間で特別授業やってみたいひんか」って言うてくれはって。でそうやってずっと応援してくれてはって、だから今のプロジェクトの途中経過とかオープンキャンパスのこととか出会った時に色々話してたから、最後、（特別授業を）そうやってやるか？って聞いてくれはったことがすごい嬉しかった思い出です（笑）。

―どんな授業だったんですか？

環境のために個人ができることのちょっと変わった工夫を紹介して、みんなにもアイデアを考えてもらう、みたいなことをやって川辺先生が用意してくれた時間の中で、「社会とみんなは繋がってるんだよ（という意識を持ってもらおう企画）」みたいなんをやった。で、そのあ

と、自分が好きなものをめっちゃ書き出してもらって、他の、私と同じクラスでAPやってた子達の「好きなもので何かを解決したよ」っていうのを色々紹介させてもらって。みんなの好きなことを追求していったら、それが、解決したい課題の発見に繋がって、（これからの）いろんなチャレンジに繋がるんだよっていうのをやりました。これはほんまにいい経験させてもらったなと思って。小学校の先生になりたいと思ってるっていう意味でも「自分が探究で何をしてきたんだろう」っていうことを振り返るいい機会になったと思います。

高校の授業の意味

プレゼンとか論文書くのとかはとかは、ほんまに高校でやってて良かったなと思う。大学は一万字とか大変やけど、じゃああの他の人の書いた文献とかを読んでそれを使って文章を作っていくとか。引用の仕方とかも、体裁は学校によって違うけど一回がつつりやってたら全然戸惑いとかなくできたし。

—大学は「はい、どうぞ」って渡されるだけです（笑）。

そうそう（笑）。一応Wordの授業はあるけど、その情報の授業自体もそんなに戸惑わずに行けるから、それはすごい頑張ってる良かったなと思う。あとはやっぱりその「行動」の部分はあんだだけ高校の時に、最初は動くしかない状況で「やらなあかんし、やるかあ」で動いてたけど今もそのクラッシーみたいなやつが大学にもあって、（笑）。めっちゃ使いにくいんやけどあれ（笑）。そこに流れてくる情報で国際交流のイベント行ってみたりとか。そこに流れてくる情報を「拾おう！」とするアンテナは高校の時に身につけさせてもらったから、その感覚はすごい今も役立ってるなって（笑）。

そういうアンテナはつてたら「立命館小学校で子供たちが音楽イベントを企画、開催する」っていうイベントのボランティアを募集していきますっていうのを見つけて、「吹奏楽もやってたし、子供興味あるし、立命の附属やし」ってなってこれ行くしかないやん！ってなって連絡したら、自分一人だけやって、応募が。

だから最初行った時も「来てくれてありがとう」って歓迎してくれはって、教育の話とかいっぱい聞かしてくれたり、また次回別のイベントもあるけどくる？って言ってもらえたり。やっぱ立命の附属の先生やから中学とか高校のときの立守の先生と繋がってはったりして、「誰々先生知ってます！」とか（笑）。アンテナはつて良かったなあって（笑）。

—附属校って強いですね。

ほんまにそうやな（笑）。（クラッシーで）流れてきたものはガーってやってみる。

—それを大学になってまでできるのがもう尊敬しかないです。一個そういうプロジェクトやり遂げたことがまた自信になりますもんね。

そうそう。いやでも楽しくなってくる（笑）。でも今全然そういうことできそうな気配ないけど大丈夫なんかな（笑）。いますごいあれこれ手を出して終わってて。

一回生、二回生はそれでいいんかなと思いつつも自分で行動起こしてみたいと思うから、今んとこその探究でやったことがあそこ（高校卒業）の時点で終わってしまったて。なんかできひんかなと思いつつも時間もそんなあるわけじゃないからなかなか継続は難しいと思ってる。

「子供とかじゃないやつも手を出してみたりしてるんですか？」

うん、でもやっぱり子供系が多いかな（笑）。去年は国際系とかも。留学で来た人に学校案内してみるとかもやってみたけど、やっぱり子供と関わる系が楽しくって。それをチョイスして参加してる（笑）。

「好きじゃないと続かないですね（笑）。

人との繋がり、みたいな話。めっちゃ前のところに戻るけど（笑）。ちよつとでもお世話になった人とかインタビューさせてもらった人とか、全部所属と名前と連絡先とか何で関わったかとかを一覧にしとくといいなとやりながら思っ。忘れはしいひんねんけど、流石に（笑）。

でも最後にお世話になった人にお礼送るときに、なんの人やったか忘れちゃうのもつたいたいと思うし。途中から一覧にしててめっちゃ役に立ったから、おすすめ。（笑）。プロジェクトやって、最終論文書きましたってなったら、直接行ける人のところには直接いいに行っ。メールしか無理なところはメールで送っていいみたいな。お礼のやつ印刷して「こういうふうには最後はできました」って持って行ったり。授業としてもやるけど、ちゃんとお世話になったしお礼伝えたいっていう意味でもやれたから。

「大事ですよ。高校生のうちからメールの送り方とか知れるのがめっちゃいいなと思いました。

そう！めっちゃいい！ほんまに調べた（笑）。一個のメール打つのに三十分とかかかんねん。敬語の使い方とか（笑）。その相手の人の送り方のできるだけ揃えたほうがいいなとか。相手が「お世話になってます。」って送ってきてくれはったら、自分はもうちよつと上の敬語表現で行ったほうがいいのかなとかめっちゃ色々考えてた（笑）。でも今に役に立ってるなと思う。今も正しいかはわからへんけど。

「本当に難しいですよ。勉強していきます（笑）。すごたくさんお話し聞かせていただいてありがとうございます！楽しかったです。こちらこそ！ありがとうございます。」

【感想】

初めはすごく硬いメールから始まったので、どんなインタビューになるか不安しかなかったけど実際にお会いするととても話しやすい雰囲気でも楽しい空間を作っていただきました。今のうちにしておいたほうがいいことやこれからの高校、大学生活ではどんなことがあるのかなど自分にとってプラスになることも教えていただきとても有意義で良い経験をさせていただいたと思います。



右：語り手 石田陽菜乃さん

左：聞き手 三村真由